

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年8月21日 午後7時～8時30分
会 場 丸山自治会集会所（丸山自治会）
天 気 晴れ

参加者 52人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

◆災害時の障がい者に対する具体策はどうなっているのか。

☆情報についてはエリアメールの整備充実を図っているが、例えば避難所での生活を考えた時に、様々な障がいの状況に鑑みて精神障害の人と健常者が暮らしを共にできるのかなどについて、検討する必要があると考えている。

市では、要援護者名簿の作成を進めているので、自力避難が困難な方については、登録をいただきたい。市としては情報を伝達するだけでなく、守りを固める手段として重要だと思っているので活用して欲しい。

◆マンパワーの確保はされているのか。失礼だと思うが今日のこの集まりにも高齢者の方しか見受けられない。

☆地震はいつ発生するか分からない。地震発生の時間や季節によって状況は様々だと思う。平日か土日か、昼か夜か深夜か、冬か夏か、などにより被害が違ってくる。冬の北風が吹いている夕食の支度時であれば火災が発生することが想定され、そんな時に指定避難所方面から煙が上がっていることもあるだろう。その時はそちらに行くのではなく、まずは近くの安全な場所に逃げて、自分の身を守って欲しい。とにかく生き残れる手段を考えて落ち着いてから避難所に行って欲しい。それから、地域の人たちと力を合わせて救助活動など行っているいただきたい。よく、想定外という言葉を目にするが、若い人達が出払っている昼間でも3.11の時のように地震は起こり得る。残っている地域の方々に何とか助け合う手立てを考えておく必要がある。

◆災害時に防災無線で流すアナウンスの内容を、想定できる範囲であらかじめ周知しておいた方がいいのではないか。どんな内容で流れるのかを事前に知っておくと良い成果に繋がるのではないかと。

☆緊急地震速報を9月12日にJアラートにより流すが、その内容について詳細は明らかにされていない。示されていない。

☆先ほど自治会長さんがこの地域の避難所について皆さんに確認していたが、これも非常に重要なことだと思う。それを踏まえた上で、何しろ緊急時にはどこでもいいから自分の身を守ることを一番に考えて、まず命の確保を図っていただきたい。阪神淡路大震災の時には、たくさんの建物が倒壊しその下敷きにな

り命を落とした方が大勢いた。あの時にバール一本あれば助けられた命もあったと聞いている。そのバールを自治会倉庫に備えておくなども重要な手段であろう。まず一番に身近な安全な場所に逃げる。その次に落ち着いてから自分の家に住めなくなった場合は、避難所を目指して欲しい。

防災無線についてはその使い方が非常に難しい。実際に無線を流すと多くの問い合わせがある。市境においては、隣町のアナウンスの内容は聞こえるが、自分の市の内容が聞こえない等、様々な苦情がある。流れている内容がきちんと伝わらないと、皆さんの不安をただ単にあおる結果になってしまう。恐らく緊急時には『落ち着いて行動してください』というような内容になってしまうのではないかと。

◆ どういう状況の時に無線を使っているのか。その基準は。

☆ 火災の状態が激しく広範囲に燃え広がってしまう恐れのある場合や、迷い人(迷子)、熱中症対策関係、竜巻の発生確度が高くなった時、防犯関係で振り込め詐欺の被害について警察から要請があった時など。

◆ 3.11と同レベルの地震が発生したときのふじみ野市の被害想定は。

☆ 平成20年3月にふじみ野市の地域防災計画の中では、震度6弱の際、一日経過しても自宅に帰れない人の想定人数が11,363人、断水被害想定人数が46,000人となっている。これは、各市町それぞれのシミュレーションだと基準がバラバラになってしまうことから、埼玉県として統一的に全市町について行ったシミュレーション結果である。この他、市としては食糧確保について計画しており1日2食を想定し3日間の確保を前提とした計画内容となっている。その詳細は市が1日、県が1日、あとの1日は皆さんのご家庭でのストック分を想定し3日分としている。その3日の間に外部から救援が来るという計画である。

いずれにしても今現在、県として防災計画についての見直しを図っているため、この冬以降にはそれが明らかにされる予定となっているので、再度、被害想定についても新たなものが示されるであろう。

◆ 近隣の2市1町間や川越市との連携関係はどうなっているか。

☆ 今度の日曜日(8月26日)に2市1町合同防災訓練を実施する。お互い防災協定を結んでおり協力しあっているが、川越市とはそうなっていない。

◆ 富士見市に近いところの住民は富士見市の避難所に逃げてもいいのか。また、そのような指示は出しているのか。

☆ 避難所についても市では実情に応じた見直しを図っているところ。実際には一番近いところに避難することは可能であり、そのような状況になった時にカバーなりフォローしあう協定であると認識している。炊きだしなどについて、実際問題、丸山自治会に加入している人だけを対象にはできないであろう。だからこそ、自治会には皆さん加入して協力関係を築いてもらいたい。若い人たちにも積極的に加入してもらいたい。この丸山自治会の加入率は低い方ではないが、現在市では、転入者などに対して自治会加入を積極的に呼びかけている。

◆防災備蓄品の程度はどのくらいなのか。細かな基準等が示されているのか。

☆地域によって被害想定が違うので統一的な基準を示すのは難しい。この地域の家屋倒壊発生率は 0.5%未満となっている。日常的な生活の中で備蓄感覚を持ていただくことが大切だと考えている。水をペットボトルに入れてストックする。お風呂の水は抜かないなど。

◆基準があれば、備蓄品として不足しているものを足しておきたいのだが。

☆トイレや懐中電灯などお示しできるものはあるが、丸山自治会の現状としては備蓄率は高い方である。指定 16 品目中、10 品目は充足している。その他は無洗米が必要ではないかと思う。お米については皆さんのご家庭で少しずつストックしていただく感覚が必要。

◆3.11 の際には停電しトイレ等使えずとても不便だった。その他、集会所の使い方について、市の職員の方にここを管理してもらうのは可能か。

☆市の職員は各避難所ごとに指定職員として 5 人程度張り付いており、その他対策本部や救助班等に数 10 人が張り付く計画の中、各集会所に職員を割り振ることは不可能である。マンションの停電で苦勞されて、あの経験がきっかけとなり自治会組織を立ち上げようという動きも見られる。12 月 2 日の全市防災訓練の際には、実際に地区対策本部を立ち上げてもらうことになる。地区対策本部の役割として、その地域の被害状況を把握して対策本部と連絡を取り合うという流れであり、この地区対策本部の運営は地域の皆さんに行ってもらいたい。できれば、9 月末までに 12 月 2 日に向けた行動計画を示してもらいたい。

◆地域の組織における部員さんは毎年顔ぶれが変わってしまう。本来の自主防災組織としては現在、休眠状態にある。丸山は自治会組織イコール自主防災組織という認識をしている。要援護者名簿の作成については進めているところ。9 月 12 日の放送については、回覧を廻しているのを読んでおいて欲しい。

◆市から来る防災関係の集まりについて、日程の周知が遅くなかなか参加がしにくい状況である。もっと早く知らせたい。参加率を上げるためには、3~4 ヶ月前の周知が必要である。

☆なるべく早めにお知らせしていきたい。

◆要援護者名簿の作成について、個人情報保護の壁が高く助けてあげたくても助けられない状況である。そんな中、どのような繋がりを持って接していけば良いのだろうか。地区の民生委員さんだけでも個人情報を持っていた方がいいのではないか。本人からの届け出を待っているだけでは難しいと思う。

☆その通りだと思う。お年寄りの中には個人情報を出したがる傾向も強いように感じている。時と場合により情報を出さなければならないこともあるかと思っている。個人情報を守るために大切な命を削ることになりかねない。

現在、消防本部の建て替えを行っているが、その中の新しい指令台の機能としては要援護者の情報がすべて入力されていて、その地域における要援護者が瞬時に把握できるシステムになっているが、個人情報保護の問題については、

法律の範囲内でもっと効果的な手段を研究していきたい。

◆共助の範囲として、実際の災害が発生してからどのくらいの時間が経過すれば人助けができるようになるのか。人助けをするには個人個人の防災に対する備えや知識を豊富にしておかなければならないと思う。

☆自助も確かに大切なこと。皆さんそれぞれで家具の転倒防止の備えや非常持ち出し袋の備えをお願いしたい。